

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月 11日現在

機関番号：15301

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21720286

研究課題名（和文） 吉備地域における群小墳の展開過程からみた古墳時代社会構造の研究

研究課題名（英文）

A study of the social structure in Kofun Period through the research of the group mounded tumuli in Kibi Region

研究代表者

野崎 貴博（NOZAKI TAKAHIRO）

岡山大学・埋蔵文化財調査研究センター・助教

研究者番号：40284054

研究成果の概要（和文）：本研究は岡山県における群小墳研究を推進するため、調査成果を収集し、総合化をはかること、GPSを用いた位置情報の取得と地理情報システムによる解析の実践のための手法の開拓を目指した。

本研究期間では、吉備地域における古墳の過半が集中する岡山県南部地域の岡山市・総社市・倉敷市・赤磐市、岡山県北部の津山市を優先して地名表作成の作業を行い、古墳時代を通じて約5000基の地名表の作成を完了した。簡易GPSを用いた位置情報取得のための試みについては、小規模な古墳が密集する場合でも相対的な位置関係の把握が可能なこと、取得したデータの補正を行うことできわめて正確な位置情報が取得できることを確認できた。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this project was that the study of the group mounded tumuli in Kibi region was advanced. Therefore, I collected the excavation reports of the group mounded tumuli in Okayama Prefecture. And I investigated the group mounded tumuli using the mobile GPS to get the coordinates, and the data was put on the analysis of the Geographical Information System to make the distribution map of the group mounded tumuli in Kibi region.

In the term of this project, I completed the name of a place table of the group mounded tumuli in Okayama, Soja, Kurashiki, Akaiwa and Tsuyama City. According to this table, there are about 5,000 tumuli in this area. And then, I obtained the prospect that using mobile GPS was the effective method to get the coordinates of the group mound tumuli.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
総計	2,000,000	600,000	2,600,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：古墳時代・群小墳・吉備地域・GPS

1. 研究開始当初の背景

古墳の大多数は小古墳であり、その多くが群をなして形成される。古墳時代後期の「(新式) 群集墳」についての研究は 1960 年代から被葬者の社会的性格をめぐる議論に昇華され、古墳時代研究のなかで重要な位置を占めてきた。しかし、このような小形墳墓の群集は弥生時代から認められるものであり、古墳時代前期・中期の群小墳については、実態を解明するための研究は必ずしも進展していない。私が研究対象とする岡山県域においては、古墳時代後期の群集墳研究も含めて古墳時代の群小墳研究全体が停滞状況にある。

岡山県内で実施された群小墳の発掘調査は、数百基以上にのぼり、良好な調査資料が積み上げられてきている。しかし、これらの小古墳の研究は 2000 年代に入ってからほとんど行われていない。巨大古墳や首長墳と目される前方後円墳の調査・研究には大きな成果があがっているだけに、群小墳の研究が立ち遅れている印象は強い。その原因の一つは調査成果の量が膨大なこと、多数の発掘調査報告書に分散して掲載されていること、にあると考える。

先述した首長墳の研究が進展していることは、岡山県域を研究フィールドとする利点でもある。岡山県域では古墳時代の開始段階から多数の前方後円(方)墳が、また古墳時代中期には巨大古墳が相次いで築造されている。これらの前方後円墳については多くの研究成果が蓄積されてきており、その研究成果と群小墳の研究とをリンクさせることで、吉備地域の古墳時代社会の階層構造を明らかにすることができると思う。

岡山県で古墳時代の小古墳を研究する利点の一つに、発掘資料以外の資料が整備されてきたこともあげられる。岡山県で作成された新たな遺跡分布地図により、県内の古墳の分布の概略を知ることができるようになってきた。

以上のように、岡山県では群小墳研究に必要な資料の蓄積は着実に進められており、その情報を収集し、整理する段階にあると考えた。

2. 研究の目的

本研究の主たる目的は、個々に蓄積されてきたデータを集成・統合することにより、岡山県内に存在する群小墳のデータを収集、分布図を作成し、全体像を把握する。

2000 年代以降、岡山県下の群小墳研究停滞の要因は、調査成果の量が膨大で、多数の発掘調査報告書に分散して掲載されていること、にあると考えるので、まずこれらの調査成果を丹念に収集し、総合化する。

岡山県で古墳時代の小古墳を研究する利点の一つに、発掘資料以外の資料が整備されてきたことがある。岡山県で作成された新たな遺跡分布地図により、岡山県内の古墳の分布の概略を知ることができるようになってきた。これを踏査等によって情報を補完することにより、より有効な資料として活用できるものとする。

今回の研究期間内では、以下の点について明らかにする。

(1) 今回の研究の主たる目的は、個々に蓄積されてきたデータを集成・統合することにある。

そこで岡山県内に存在する群小墳のデー

タを収集、分布図を作成し、全体像を把握する。分布図の作成にあたっては国土地理院の数値地図を使用し、デジタルマップを作成する。

(2) 岡山県内で発掘調査が実施された群小墳の調査成果を集成する。集成したデータについては、埋葬施設や副葬品などの要素ごとに分析を行い、吉備地域の群小墳の特質や地域性、歴史的展開過程を明らかにする。

(3) 集成した群小墳のうち、良好に残存しているものを中心に踏査を実施し、データ収集を進める。踏査にあたっては、GPS測量機を用い、正確な位置情報を取得するとともに、分布図作成時にデジタルマッピングに活かす。

(4) GPS機器を用いた分布調査はその手法が確立されたものではない。今回、古墳群の踏査を実施しながらさまざまな方法を試行することにより、デジタル機器を用いた分布調査の有効な方法を開拓したい。

(5) 調査・研究が進展している畿内・関東・東海の群小墳の成果と比較し、吉備地域の群小墳の地域的特質や歴史的展開過程を明らかにする。

3. 研究の方法

今回の研究では、群小墳の分析を進めるための基礎となる資料集成が第一義的な作業となる。

資料収集の方法としては、発掘調査報告書等の文献から得るもの、踏査により直接資料収集する方法をとる。これらの資料に基づいて研究を進めるため、以下の方法をとる。

第1に、岡山県域における群小墳の分析を進めるために必要な資料を収集し、デジタルマッピングによる分布図の作成および調査報告成果をスキヤニングしてデジタルデータ化することにより、岡山県域の群小墳のデ

ジタルアーカイブを構築する。

第2に、群小墳の研究において、もっとも有効な調査手段は徹底した踏査による古墳の観察である。その際、古墳の位置を正確に把握するため、GPSを用いた踏査を行いたい。GPSを用いることにより、古墳の正確な位置を知ることができるだけでなく、デジタルデータによる位置情報を国土地理院が発行している数値地図にリンクさせ、デジタルマップの作成が可能となるからである。これはデジタルアーカイブの構築にも有効な調査手法であると考えており、できるだけ多くの古墳群でデータを取得することが必要である。

研究計画当初に目指した具体的な作業は以下の通りである。

(1) 岡山県内に存在する群小墳のデータを収集、分布図を作成し、全体像を把握する。

(2) 岡山県内で発掘調査が実施された群小墳の調査成果を集成する。

(3) 集成した群小墳のうち、良好に残存しているものを中心に踏査を実施し、データ収集を進める。

(4) GPS機器を用いた古墳群の踏査を実施し、さまざまな方法を試行する。

(5) 畿内・関東・東海の群小墳の成果と比較する。

4. 研究成果

本研究期間では、吉備地域における古墳の過半が集中する岡山県南部地域の岡山市・総社市・倉敷市・赤磐市、岡山県北部の津山市を優先して地名表作成の作業を行い、古墳時代を通じて約5000基の地名表の作成を完了した。今後、周辺地域のものについても補足し、県内全域の地名表完成を目指す。簡易GPSを用いた位置情報取得のための実践的な試みについては、小規模な古墳が密集する場合でも相対的な位置関係の把握が可能な

こと、取得したデータの補正を行うことで
わめて正確な位置情報が取得できることを
確認でき、効率的な分布調査手法としての見
通しが得られた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に
は下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

①野崎 貴博、「中四国の埴輪棺と地域間の交流」
『埴輪から見た中期古墳の展開』、査読無、2011年、
pp. 1 - 10

〔学会発表〕(計1件)

①野崎 貴博、「中四国の埴輪棺と地域間の交流」、
中国四国前方後円墳研究会、2011年11月26日、
鳥取県東伯郡湯梨浜町

〔図書〕(計0件)

なし

〔産業財産権〕

なし

〔その他〕

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

野崎 貴博 (NOZAKI TAKAHIRO)
岡山大学・埋蔵文化財調査研究センター・
助教
研究者番号：40284054

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし